

長岡市寺泊地域における園芸作物導入について～パート2～

長岡地域振興局農林振興部

1 はじめに

長岡市寺泊地域は長岡市の北西部に位置し、一級河川信濃川から大河津分水路沿いに開けた米作主体の農業地域で、桐島桐原地区（H5～H16）、潟地区（H16～）及び求草地区（H24～）では基盤整備を行い、大区画化および農地集積により生産性の向上を図っています。

平成29年度に、ほ場整備地区における担い手への重点取組事項の一つとして「高収益作物の導入」が掲げられたことから、長岡地域振興局管内では桐島桐原地区と事業継続中の潟地区をモデル地区に選定し、平成30年度より「えだまめ」の作付けを行っております。

今回は、昨年引き続き令和元年度の活動状況について報告します。

2 令和元年度の活動状況について

農地耕作条件改善事業（高収益作物転換型） 桐原地区 暗渠排水（地下かんがい）標準施工図

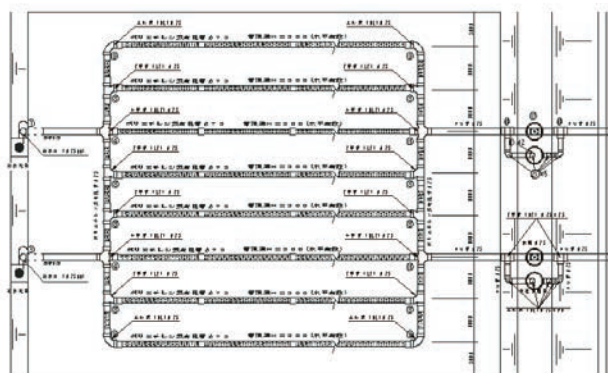


図1 暗渠排水図



写真1 定植実演会の様子（えだまめ移植機）

(1) 排水対策：暗渠排水工事（H31.3月施工）

平成30年度は実証ほ場の排水不良により作付け困難箇所や生育不良等があったことから、農地耕作条件改善事業（高収益作物転換型）を活用して、地下かんがい型の暗渠排水工事A = 82.8aを農家の自力施工により行いました。今後の計画としてR1年度A = 97.1a（11月から作業を開始、施工中）、R2年度A = 77.8aを整備する予定となっています。

また、移植や収穫機械のリースや高収益作物導入支援（種子・苗・肥料・マルチの補助）として同事業のソフト事業を活用しました。

(2) 栽培技術の習得①：定植実演会の開催（R1年5月8日）

定植実演会には地元農家のほか、市・JA・土地改良区・振興局の関係者など40人が参加し、今年度JA越後さんとうが新たに導入したえだまめ移植機（半自動2条移植機をJA全農からリース）により作業の実演を行いました。

なお、昨年は夏戸集落で1haの作付けでしたが、今年度は夏戸集落を含めた4集落で2.3haに拡大した作付けとなりました。

(3) 栽培技術の習得②：栽培指導会の開催（R1年6月12日）

県・普及指導センターから生育目標と収穫までの管理として、ア) 生育状況、イ) 先刈り、ウ) 追

肥、エ) 防除、オ) かん水 の作業時期や作業方法についての指導会を行いました。

(4) 栽培技術の習得③：収穫前の管理及び収穫作業実演会の開催 (R1年7月25日)

防除、収穫前追肥、収穫期の留意点についての指導と合わせ、トラクターアタッチ型収穫機による作業実演会を開催しました。

3 中間報告会 (R1実績とR2計画) について



写真2 栽培状況 (機械収穫)

1) 栽培概況

① 栽培体系 露地マルチ移植栽培、機械収穫

育苗はJA越後さんとうで行い供給、畝立マルチャー・移植機・収穫機は同JAより貸出、防除機は個人所有を利用。

出荷・調整は (1) 生産者→(2) JA越後さんとう集荷場→(3) JA越後ながおか園芸流通センター

② 品 種 湯あがり娘 (早生：7月下旬収穫)

A = 22.2a

新潟茶豆 (中生：8月中旬収穫) A

= 181.2a

③ は種・移植・収穫

() はH30実績

ほ場	面積 a	栽培 a	は種	畝立 マルチ	移植	開花	収穫	ほ場単収 Kg/10a	製品単収 Kg/10a	製品率 %
寺泊	234 (100)	203 (60)	4/24 ~ 6/5	5/4 ~ 6/4	5/8 ~ 6/17	6/14 ~ 7/20	7/25 ~ 8/20	311~470 平均 394kg (458kg)	116~274 平均 226kg (239kg)	35~65 平均 57% (52%)

2) 栽培を振り返って

今年度は畝立マルチャーの調整不良で畝幅が広く疎植となったこと、6月末の大雨 (寺泊 171.5mm) 等による水没や畝間の滞水による生育不良、7月30日~8月19日の異常高温・乾燥の影響により、単収量は昨年度の実績を下回る結果となりました。

来年度はさらに面積増加 (面積 3 ha) を予定しており、一層の技術の向上に取り組んでいくこととしています。

4 終わりに

本地域では、令和2年度から新規ほ場整備地区として平野新地区と年友地区が実施予定であり、更なる園芸作物の面積増加が見込まれます。収量・品質確保に向けた排水対策や団地化など園芸の産地化に向けた課題も多くありますが、市・JA・土地改良区・振興局が連携し、園芸導入・拡大に向け地域と一体となり積極的に推進していきたいと思います。